

## 全交大会（2017年7月28-30日）への声明

反核運動全国連合（NAAM）

私たち、インド市民は、日印の双務的な原子力協定に深刻な関心を持つものである。私たちは、ここに協定に対する私たちの反対を表明し、日本政府が、核のない世界という大きな共有財産の意味をよく考え、協定を開始しないよう強く主張する。

私たちは、これらの大きな根拠において原子力協定に反対する。

私たちは、この世界のどこにもフクシマのような破滅的な原子力災害を決して繰り返してはならない。原子力は、いくつかの点で生命、生計、そして環境に脅威を与える。これは、すでにチェルノブイリの原子力事故で証明され、さらにはフクシマにおいて立証された。フクシマ後、いくつかの単発の原子力事故が人々の生命と環境を破滅させるということが明らかになった。インドにおいては、人々はまたウラン採掘から被害を被っている。事故が無くても、原子力技術は本来備わっているリスクと非人間的な特質を持つ。一度事故が起きると、私たちの土地を回復することは不可能である。私たちの何名かは、フクシマ原子力事故によって犠牲となった日本の普通の人々の苦しみを目撃してきた。私たちは、彼らの生計を含むすべてを失っていて、彼ら自身の国の難民になる羽目になった人々に会った。フクシマの犠牲者の回復力を原子力の無言の受け入れと誤解してはならない。立ち直って、土地に留まることは、より日本人自身の粘り強さを表している。強くあり続けるためには、日本人にとって原子力は続けねばならない。元来破滅的である原子力の特質は、日本人固有の回復力とは絶対的な矛盾である。私たちは、それゆえに日本の首相に原子力を奨励することを止めるよう強く主張する。原子力は、生態学的持続可能なエネルギー資源でないということもまた確立されている。インドや日本のような国は、エネルギー需要と気候変動への挑戦に合わせて再生可能エネルギーの使用を積極的に探究するべきである。インド政府は、エネルギー安全保障と安定したエネルギー供給のために原子力技術は不可欠であると主張する。しかし、原子力に対する巨大な投資にも拘わらず、インドのエネルギーのわずか2.3%が原子力部門からにすぎない。原子力エネルギーは、高価で危険な技術である。私たちはまた、利用されておらず大量に取り残されている再生可能エネルギーに巨大な可能性を持っている。私たちは、それゆえに、日本に対して原子力の代わりに再生可能エネルギーに投資することを促す。これは、気候変動と生態学的持続可能な発展への挑戦に対応することで、直ちに日本とインド両国に利益をもたらす。

私たちは、核の無い世界を達成するために原子力を止めなければならない。日本は、核兵器と原発事故の両方で被害を被ったただ一つの国である。そして、まさに日本は、世界を核の無い未来に向かわせることを指導する際立った資格を得ている。私たち、インド市民は、このゴールを日本と共に達成することを強く希望する。

私たちは、いつでも核兵器と事故の被害者、そして原子力の被害者に対する連帯を持ち続ける。日印原子力協定は、日本とインドの全てのそうした被害者への侮辱となるであろう。そのうえ、邪悪な原子力を流布することを助けることになる。

インドは、原子力に反対する人々の闘いの長い物語を持っている。人々の中には彼らの土地を失った者があり、他の者は放射能に苦しんでいる。原子力に反対する活動家たちの闘いは、権力によって無慈悲に抑圧されている。私たちは、普通のインド人の声が日本の人びとの声に届くことを願う。フクシマやヒロシマの被害者のように、私たちは原子力に反対して闘ってきた。

私たちは、あなた方が私たちの日本への愛情を理解して、インドと日本の普通の人々の最大の関心である協定を破棄するために共に運動されることを強く希望する。